

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-171946

(43)Date of publication of application : 02.07.1996

(51)Int.Cl.

H01R 9/00

(21)Application number : 06-317000

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD

(22)Date of filing : 20.12.1994

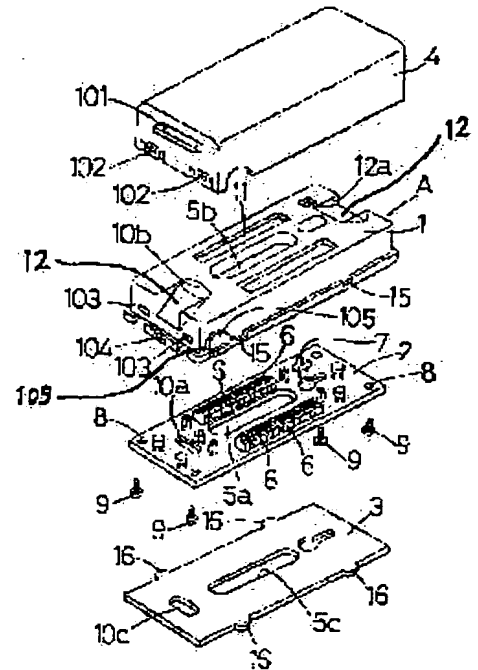
(72)Inventor : YAMADA TORU  
TANAKA SHOZO  
KITABAYASHI YASUYUKI

## (54) PICTURE IMAGE PAIR WIRE TYPE BRANCHING/DISTRIBUTING DEVICE

## (57)Abstract:

PURPOSE: To provide such a picture image pair wire type brancher/distributor as being capable of eliminating the connection of a lead between the protecting cover side and the body side and improving workability by using a quickly jointed terminal.

CONSTITUTION: A P-plate block 2 on which an attenuation circuit is mounted is integrally attached to the back of a body 1 and a groove 12 in which a wire is arranged and supported is provided on the body 1 side during exposure wiring. Wire insertion holes 5a, 5b, 5c through which the wire is guided to the body 1 side are formed on the body 1, the P-plate block 2 and a cover 3 on the back of the body, respectively, during embedding wiring so that a protecting cover 4 can be mounted on the body 1 in a demountable manner. A handle 101 is integrally formed and protruded on one side of the protecting cover 4. When the protecting cover 4 is detached from the body 1, the handle 101 is held by hand and pulled from the body 1 to the detached direction.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

15.12.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3440592

[Date of registration]

20.06.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-171946

(43) 公開日 平成8年(1996)7月2日

(51) IntCl.<sup>8</sup>

H 0 1 R 9/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 9367-5B

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平6-317000

(22) 出願日 平成6年(1994)12月20日

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 山田 徹

大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

(72) 発明者 田中 章三

大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

(72) 発明者 北林 安幸

三重県津市大字野田字鎌切856番地 株式会社オームズ内

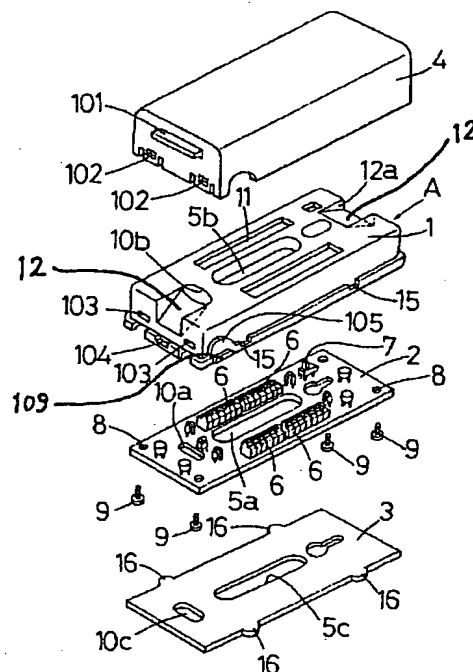
(74) 代理人 弁理士 佐藤 成示 (外1名)

(54) 【発明の名称】 映像ペア線式分岐／分配器

(57) 【要約】

【目的】 保護カバー側とボディ側とのリード線接続を不要とし、かつ速結端子を用いることで施工性の向上を図った映像ペア線式分岐／分配器を提供すること。

【構成】 ボディ1裏面側に減衰回路を実装したP板ブロック2を一体的に取り付けるとともに、露出配線時に電線を配装支持するための溝12をボディ1側に設け、かつ埋込配線時に電線をボディ1側に導出するための電線挿通孔5a、5b、5cをボディ1、P板ブロック2、本体裏カバー3に各々形成し、上記ボディ1に保護カバー4を着脱自在に装着できる構成としている。また、保護カバー4の一方側面部には、把手部101を一体成形により突設している。ボディ1から保護カバー4を取り外す際には、把手部101を手で把持しボディ1から離脱させる方向に引っ張ればよい。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 壁面に取り付けられる本体裏カバーと、該本体裏カバーに装着されるボディと、上記ボディと本体裏カバーとの間に收容され、かつボディ裏面に一体的に取り付けられる端子および回路を実装した P 板ブロックと、上記ボディに着脱自在に装着される保護カバーとを備えている映像ペア線式分岐／分配器であって、上記保護カバーの一方側面部およびボディとに着脱自在に互いを係止する係止手段を設け、該保護カバーの他方側面部に把手部を突設した映像ペア線式分岐／分配器。

【請求項 2】 上記ボディには係止爪部を形成し、上記保護カバーの把手部配設側には前記係止爪部が係止する爪受部を形成し、係止爪部の係止面に傾斜を付けた構成とした請求項 1 に記載の映像ペア線式分岐／分配器。

【請求項 3】 保護カバーをボディから離脱する方向への係止強度は、上記係止手段の係止より上記係止爪部及び爪受部との係止の方を強くした請求項 2 に記載の映像ペア線式分岐／分配器。

【請求項 4】 上記ボディの両側部それぞれに、ボディを指にて挟持するための挟持面を設けた請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載の映像ペア線式分岐／分配器。

【請求項 5】 上記挟持面に滑り止めリブを突設した請求項 4 に記載の映像ペア線式分岐／分配器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、施工時に取付が簡単に行える映像ペア線式分岐器あるいは分配器として使用されるものである。

## 【0002】

【従来の技術】 図 20 は従来の映像ペア線式分岐／分配器を示し、(A) はボディから保護カバーを取り外した状態を示す平面図、(B) はボディに保護カバーを取り付けた状態を示す側面図である。

【0003】 これらの図面において、11 はボディであって、該ボディ 11 の表面側には多数の結線端子 22 が列設されている。一方、33 は上記ボディ 11 に着脱自在に被せられる保護カバーであって、該保護カバー 33 内側には減衰回路を実装した P 板ブロック 44 が配設されている。そして、ボディ 11 側と保護カバー 33 側とはリード線 55 で接続することにより構成されている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記した従来の映像ペア線式分岐／分配器では、その施工時、壁面等にボディ 11 側を取り付け、各結線端子 22 を結線した後、上記ボディ 11 側と保護カバー 33 側とをリード線 55 で接続しなければならないため、さらにボディ 11 と保護カバー 33 とをネジ止め固定しなければならないため、施工性が劣っていた。また、各結線端子 22 における結線も、各結線端子 22 にある各ネジ 66 に

よるネジ止め施工方式であるために、各ネジを弛緩して一々心線を巻付け、その後に各ネジを締めつけるというもので、手間と時間がかかり、作業性が悪いという課題があった。

【0005】 この発明は、上記の点に鑑みて成されたものであって、ボディ側と保護カバー側との間のリード線接続をなくし、かつ結線もネジ止め施工方式に代わる簡素化手段を講じることにより、取付作業性、ひいては施工性の向上をはかることができる映像ペア線式分岐／分配器を提供することを目的としている。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 上記した目的を達成するため、請求項 1 の発明では、壁面に取り付けられる本体裏カバーと、該本体裏カバーに装着されるボディと、上記ボディと本体裏カバーとの間に收容され、かつボディ裏面に一体的に取り付けられる端子および回路を実装した P 板ブロックと、上記ボディに着脱自在に装着される保護カバーとを備え、上記保護カバーの一方側面部にボディとの係止手段を設け、該保護カバーの他方側面部に把手部を突設した構成としている。

【0007】 請求項 2 の発明では、請求項 1 の発明において、上記ボディには係止爪部を形成し、上記保護カバーの把手部配設側には前記係止爪部が係止する爪受部を形成し、係止爪部の係止面に傾斜を付けた構成としている。

【0008】 請求項 3 の発明では、請求項 2 の発明において、保護カバーをボディから離脱する方向への係止強度は、上記係止手段の係止より上記係止爪部及び爪受部との係止の方を強くした構成としている。

【0009】 請求項 4 の発明では、請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかの発明において、上記ボディの両側部それぞれに、ボディを指にて挟持するための挟持面を設けた構成としている。

【0010】 さらに、請求項 5 の発明では、請求項 4 の発明において、上記挟持面に滑り止めリブを突設した構成としている。

## 【0011】

【作用】 上記のように構成される請求項 1 の発明では、P 板ブロックが保護カバー側ではなく、ボディ裏面側に一体的に取り付けられているので、施工時に、上記保護カバー側とボディ側とをリード線で接続する必要がなく、したがって施工性が向上するとともに、把手部を引っ張ることにより保護カバーをボディから容易に取り外すことができる。したがって、保護カバーとボディとの離脱作業が手元でも、分岐／分配器を取付面に取り付けた状態のままでも容易にでき、施工時、メンテナンス時の省力化がはかれる。

【0012】 請求項 2 の発明では、係止爪部の係止面に傾斜を付けたことにより、係止爪部と爪受部との係止もしくは離脱が少ない外力で容易にできる。したがって、保

護カバーとボディとの離脱作業または取付作業が少ない力でも容易にでき、施工時、メンテナンス時の省力化がはかれる。

【0013】請求項3の発明では、保護カバーをボディから離脱させる際に、把手部側の係止の方がその逆側の係止手段より先に係止解除されるようになっている。したがって、係止手段の係止を支点として保護カバーの把手部側が回転しながらボディから離脱していき、その後係止手段の係止が解除されるので、保護カバーとボディとの取り外し作業がスムーズとなる。

【0014】請求項4の発明では、ボディの挟持面を一方の手の指で挟持してボディを支持しつつ、他方の手で把手部を把持して引っ張ることにより、保護カバーとボディとの離脱作業ができる。したがって、保護カバーとボディとの離脱作業を手元で行うときにはボディを支持する手の指がボディから滑り外れにくく離脱作業が容易になる。

【0015】さらに、請求項5の発明では、保護カバーとボディとの離脱作業を手元で行うときにボディを支持する手の指が滑り止めリブに引っ掛かって特に滑り外れ

【0016】

【実施例】以下、この発明にかかる映像ペア線式分岐／分配器の実施例を図面により説明する。

【0017】まず、この発明にかかる映像ペア線式分岐／分配器の使用状態の一例を説明する。以下に説明する各実施例の映像ペア線式分岐／分配器Aは、図19のごとく例えば集合住宅通話システムに使用できるものであり、ロビーインターホン113、管理人室の警報監視盤114、ロビーインターホン113からのカメラ映像を増幅・制御して出力する映像制御盤112、各住戸の配置される住宅情報盤110、ロビーインターホン113からのカメラ映像を映し出すモニターテレビ111、住宅情報盤に接続された各住戸用のドアホン子器D、などが伝送線にて接続されて成るシステムにおいては、映像制御盤112に接続された映像ペア線、通話ペア線、信号ペア線（1pr=1ペア線）の計3ペア線（計6本線）から成る伝送線Lと、各住戸の住宅情報盤110、モニターテレビ111への映像分岐線、通話分岐線、信号分岐線（いずれもペア線）とを接続するために使用できる。

【0018】つぎに、この発明にかかる映像ペア線式分岐／分配器の第1実施例を図面により説明する。図1ないし図9は第1実施例を示す図であり、図1はその分解斜視図、図2は同じく組立完成時（保護カバーを装着する前）の斜視図、図3ないし図4は保護カバー4とボディ1との装着状態を示す要部断面図、図5または図9はボディ1表面一部を示す図、図6は映像ペア線式分岐／分配器Aの施工状態図、図7ないし図8は保護カバーおよびボディとの離脱作業を示す図である。

【0019】第1実施例の映像ペア線式分岐／分配器Aは、ボディ1と、壁面に取り付けられる本体裏カバー3と、上記ボディ1と本体裏カバー3との間に收容され、かつボディ1裏面に一体的に取り付けされる減衰回路を実装したP板ブロック2とから構成され、上記ボディ1には保護カバー4が着脱自在に被冠されて構成されている。

【0020】そして、上記した各構成部品のうちで、P板ブロック2には、その中央部位に電線挿通孔5aが形成されており、該電線挿通孔5aの両側には連結端子6を設けている。また、7はダミー抵抗接続スイッチ、8は該P板ブロック2の四隅に設けられた取付用孔であり、9は該取付用孔8から差し込まれてボディ1側にP板ブロック2自体を固定するためのネジ、10aは上記電線挿通孔5aの両側に設けられ、組立時の映像ペア線式分岐／分配器Aを壁面に取り付けて固定保持するための取付用孔であって、該取付用孔10aには、図示しない止具類が挿通させられるようになっている。

【0021】また、ボディ1には、上記P板ブロック2の電線挿通孔5aの設定位置に対応し、かつ該電線挿通孔5aと連通可能な電線挿通孔5bが形成され、該電線挿通孔5bの両側には取付用孔10aの設定位置に対応し、かつ該取付用孔10aと連通可能な取付用孔10bが形成されている。そして、上記電線挿通孔5bの両側には、一对の開孔11が設けられ、該ボディ1裏面側にP板ブロック2を取付固定した際に、該開孔11からP板ブロック2の連結端子6が露出されるようになっている。さらに、図12に示す他の実施例の場合、上記電線挿通孔5bの両端、つまり、ボディ長手方向両側には、電線配装用の一对の溝であってボディ長手方向両側に下り勾配の傾斜を付けられた溝12aが形成されている。なお、15は本体裏カバー3の嵌合用爪16に嵌合してボディ1に本体裏カバー3を一体的に取り付けるための嵌合用孔であって、ボディ1の長手方向両側面部の下縁に計4箇所設けられている。

【0022】また、本体裏カバー3には、上記電線挿通孔5a、5bの設定位置に対応し、かつこれらの電線挿通孔5a、5bに連通可能な電線挿通孔5cが形成され、かつこれらの取付用孔10a、10bに連通可能な取付孔10cが形成されている。

【0023】なお、ボディ1の嵌合用孔15に嵌合させられる嵌合用爪16は上記嵌合用孔15にそれぞれ対応する位置に設けられている。

【0024】保護カバー4の一方側面部（図1手前側）には、把手部101を一体成形により突設しており、さらに把手部101とは反対側の側面部には、図4に示すように、ボディ1に設けた第1係止爪106が着脱自在に係止する係止凹部107を設けてある。また、保護カバー4において把手部101を配設した側の側面部に

は、図 3 に示すように、ボディ 1 に形成した第 2 係止爪 103 が係止する爪受孔 102 が形成されている。また、ボディ 1 において第 2 係止爪 103 を形成した側面には、マイナスドライバー等の工具 201 を挿入するための工具溝 104 が設けられている。

【0025】上記第 2 係止爪 103 には、図 3 に示すように爪受孔 102 との係止面の両面に傾斜面 103a、103b が設けられている。上記第 1 係止爪 103 には、図 12 に示すように係止凹部 107 との係止面は片面のみに傾斜面 107a が設けられている。また、図 1

等【0026】図 5 は、1 入力 1 出力 2 分岐の映像ペア線式分岐／分配器、すなわち、2 個の住宅情報盤 110 が接続できるタイプの映像ペア線式分岐／分配器であり、その表面には各速結端子 6 の各端子孔 6a 毎に接続する電線の種類を印刷した端子銘板 108 が貼付されている。映像ペア線式分岐／分配器 A にはペア線が接続されるため、端子孔 6a が 2 つがペアを成してペア線が接続されるようになっている。ここで、図中①には文字「信号」が印刷され、対応の端子孔 6a には信号ペア線を接続する。②には文字「通話」が印刷され、対応の端子孔 6a には通話ペア線を接続する。③には文字「映像」が印刷され、対応の端子孔 6a には映像ペア線を接続する。同じく、図 9 は他の実施形態であり、1 入力 1 出力 1 分岐の映像ペア線式分岐／分配器、すなわち、1 個の住宅情報盤 110 が接続できるタイプの映像ペア線式分岐／分配器である。

【0027】図 10 はこの発明に係る映像ペア線式分岐／分配器の第 2 実施例を示す分解斜視図、図 12 は更に第 3 実施例を示す分解斜視図、図 11 は図 12 の組立完成時（保護カバーを装着する前）の斜視図である。第 2、第 3 実施例の映像ペア線式分岐／分配器が、上記実施例と異なる点のみ述べる。

【0028】第 2 の実施例の場合、上記傾斜の付いた溝 12a の代わりに、傾斜が付いていない電線配装用の溝 12 が形成されているとともに、保護カバー 4 とボディ 1 とは特に係止爪などの係止手段を無く、嵌め込みのみで保護カバー 4 がボディ 1 に装着されるようになっている。

【0029】第 3 の実施例の場合、上記した一方の溝 12 の左右両側のボディ 1 外面には、ボディ 1 は保護カバー 4 との装着時に保護カバー 4 内面に弾圧的に係止される突出部 13 と、該突出部 13 に一体的に形成され、かつボディ 1 は保護カバー 4 との離脱時に押圧により上記突出部 13 の係止を解除できる離脱用突片 14 とが設けられている。

【0030】さらに、第 2、第 3 実施例の場合、保護カバー 4 には、該保護カバー 4 をボディ 1 に被冠した際

に、該ボディ 1 の電線配装用の溝 12 に対応する位置に一对の脆弱部 17 が形成され、必要に応じて該脆弱部 17 をロックアウト式に押圧することにより、通線用開孔となりうるように構成されている。この脆弱部 17 を、具体的に説明すると、図 15 で示すように、その肉厚が切溝 18 を境に上半分では肉厚部 17a に、下半分では肉薄部 17b に形成されているので、切溝 18 を境に肉薄部 17b を押圧すると、該肉薄部 17b のみが打ち抜かれ、図 13 (A)、(B) で示すように、2 本の通線が可能となり、一方、肉厚部 17a を押圧すると、該肉厚部 17a も保護カバー 4 の他の部分に比べると、薄肉の脆弱部分であるので、脆弱部 17 全体が打ち抜かれ、図 14 (A)、(B) で示すように、4 本の通線が可能となるように構成してある。無論、該脆弱部 17 を第 1 実施例に適用してもよい。

【0031】つぎに、上記第 1 ないし第 3 実施例の映像ペア線式分岐／分配器の組立および施工について説明すると、ボディ 1 裏面側に P 板ブロック 2 をネジ止めし、しかるのち、本体裏カバー 3 を上記ボディ 1 に取り付ける。その後、図 6 に示すようにボディ 1 側が壁や電設盤などの取付面 200 にねじ止め固定される。そして、露出配線の場合には、図 16 で示すように、電線配装用の溝 12 内に電線 B を配装し、該電線 B の各心線 b を各速結端子 6 に差し込むことでワンタッチに結線を終了する。また、埋込配線の場合には、図 17 (A)、(B) に示すように、電線挿通用孔 5b からボディ 1 表側に導出させた電線 B の各心線 b を各速結端子 6 に差し込むことでワンタッチ式に結線を終了する。

【0032】その後、保護カバー 4 をボディ 1 に装着する場合について述べる。まず、第 1 実施例の場合、ボディ 1 の上から保護カバー 4 を被せて押さえ込むと、該保護カバー 4 の壁面端の下降により、ボディ 1 側の第 1 係止爪 106 と保護カバー 4 側の係止凹部 107 とが互いに係止すると同時に、ボディ 1 側の第 2 係止爪 103 と保護カバー 4 側の爪受孔 102 とが互いに係止する。第 2 係止爪 103 に傾斜面 103 を設けた結果、第 2 係止爪 103 と爪受孔 102 とが係止する際には、第 2 係止爪 103 が爪受孔 102 にスムーズに係止される。その結果、保護カバー 4 はボディ 1 に被冠され、保護カバー 4 はボディ 1 に装着される。

【0033】一方、ボディ 1 から保護カバー 4 を取り外す際には、保護カバー 4 側の把手部 101 を手で把持しボディ 1 から離脱させる方向（図 6 中矢印 X 方向）に引っ張ればよい。そのとき、上記第 1 係止爪 106 と係止凹部 107 とが係止したままで第 2 係止爪 103 と爪受孔 102 との係止が解除され、第 1 係止爪 106 と係止凹部 107 との係止を支点として保護カバー 4 の把手部 101 側が回転しながらボディ 1 から離脱していき、さらに把手部 101 を更に引っ張れば係止していた第 1 係止爪 106 と係止凹部 107 との係止が解除され、この

ようにして保護カバー 4 をボディ 1 から容易に取り外すことができる。

【0034】上記のように、上記第 2 係止爪 103 と爪受孔 102 との係止の方が、上記第 1 係止爪 106 と係止凹部 107 との係止より先に係止解除されるようになっているのは、上記第 2 係止爪 103 と爪受孔 102 との係止強度と、上記第 1 係止爪 106 と係止凹部 107 との係止強度とは、後者の方が強くなっているからである。すなわち、上記第 2 係止爪 103 には、図 3 に示すように爪受孔 102 との係止面の両面に傾斜面 103a、103b が設けられているので、ボディ 1 から保護カバー 4 を取り外す際に第 2 係止爪 103 と爪受孔 102 との係止が容易に解除できるが、上記第 1 係止爪 103 はその係止面の片面のみが傾斜面 107a であり保護カバー 4 のボディ 1 への取付けはスムーズであるが、もう一方の片面 103b は傾斜面とはなっておらず、ボディ 1 表面に略垂直な引掛面 103b となっているので、保護カバー 4 をボディ 1 から外す際には、第 1 係止爪 106 の面 103b が係止凹部 107 に引っ掛かるようになっているからである。この構成にすれば、図 6 のように取付面 200 に分岐／分配器 A を取り付けただまま保護カバー 4 をボディ 1 から離脱させることが容易にできるので、施工時のみならず、メンテナンス時にも非常に省力化となる。

【0035】また、保護カバー 4 とボディ 1 との離脱作業を手元で行う場合には、図 7 のようにボディ 1 の挟持面 105、105 を一方の手の指で挟持してボディ 1 を支持しつつ、他方の手で把手部 101 を矢印方向（保護カバー 4 をボディ 1 から離脱させる方向）に引っ張ることにより、保護カバー 4 とボディ 1 との離脱作業が容易にできる。もしくは、図 8 に示すように上記工具溝 104 にマイナスドライバー等の工具 201 を挿入してこじ開けることにより保護カバー 4 とボディ 1 との離脱作業ができる。

【0036】また、第 3 実施例の場合において、保護カバー 4 をボディ 1 に装着するには、ボディ 1 の上から保護カバー 4 を被せ、強く押さえ込むと、該保護カバー 4 の壁面端の下降によりボディ 1 の突出部 13 はその弾発力に抗して内側に押し込まれたのち、該保護カバー 4 の内壁に弾発的に係止される結果、保護カバー 4 はボディ 1 に被冠され、保護カバー 4 はボディ 1 に装着される。一方、ボディ 1 から保護カバー 4 を取り外す際には、離脱用突片 14 を内側に向かって押し込むと、該離脱用突片 14 と一体的に設けられている上記突出部 13 はその弾発力に抗して若干内側に押し込まれる結果、保護カバー 4 の内壁に対する該突出部 13 の係止は解除され、ボディ 1 から保護カバー 4 をスムーズに取り外せるようになる（図 18 参照）。

【0037】このように、上記の各実施例にかかる映像

ロック 2 を保護カバー 4 内側ではなく、ボディ 1 側に固定して取り付けているので、ボディ 1 側と保護カバー 4 側とのリード線等による接続が不要となり、従来のものに比べ、著しく施工性が向上する。また、減衰回路を実装した P 板ブロック 2 がボディ 1 側に設けられ、かつ速結端子 6 が P 板ブロック 2 に列設されているので、また、結線をワンタッチでおこなうことができるので、結線作業も効率的に行える。また、電線挿通孔 5b からボディ 1 外部へ電線を導き出すことができ、該電線 B の心線はボディ 1 の短手方向両側に列設した速結端子 6 に対し、ワンタッチ式の差し込みにより簡単に結線することができるので、埋込配線の場合の施工性が向上する。

【0038】さらに、電線挿通孔 5b あるいは電線配装用の溝 12、12a の利用選択により、露出配線である、埋込配線であるとを問わず、速結端子 6 への効率的な結線が可能である。また、電線配装用の溝 12、12a を設けたことにより、溝 12、12a 内に電線 B を安定して配置固定でき、特に、上記溝 12a のようにボディ 1 長手方向に下り勾配の傾斜を付けて形成されている場合には上記溝 12a 内に配置固定される電線 B に対する支持性がよくなって、該電線 B を位置ずれさせることなく保持でき、該電線 B に不要な応力がかかって結線不良が生じるおそれがないとともに、露出配線の際に取付面 200 からの電線 B の浮きを抑えられる。

【0039】また、保護カバー 4 の脆弱部 17 を設けたことにより、その打ち抜き加減如何で 2 本通線であると 4 本通線であるとを問わずに適用可能となる等、利用度が飛躍的に向上するという効果がある。加えて、ボディ 1 と保護カバー 4 との着脱もワンタッチで行えるので、全体としての施工性や施工後の点検作業もスムーズに行えるという効果もある。

【0040】また、把手部 101 を引っ張ることにより保護カバー 4 をボディ 1 から容易に取り外すことができる。したがって、保護カバー 4 とボディ 1 との離脱作業が手元でもしくは分岐／分配器 A を取付面に取り付けた状態のままで容易にでき、施工時、メンテナンス時の省力化がはかれる。また、第 2 係止爪 103 に傾斜面 103a を設けたことにより、第 2 係止爪と爪受部 102 との係止作業が少ない外力で容易にできるとともに、同じく傾斜面 103b を設けたことにより、第 2 係止爪と爪受部 102 との離脱作業が少ない外力で容易にできる。したがって、保護カバー 4 とボディ 1 との離脱作業または取付作業が少ない力でも容易にでき、施工時、メンテナンス時の省力化がはかれる。さらに、ボディ 1 の挟持面 105、105 を一方の手の指で挟持してボディ 1 を支持しつつ、他方の手で把手部 101 を引っ張ることにより、保護カバー 4 とボディ 1 との離脱作業ができる。したがって、保護カバー 4 とボディ 1 との離脱作業を手元で行うときにはボディ 1 を支持する手がボディ 1 から滑り外れにくく離脱作業が容易になる。

【0041】なお、さらに指が挟持面105、105から滑りにくくするために上記実施例には挟持面105、105の表面に滑り止めリブ109、109が設けられている。この場合、保護カバー4とボディ1との離脱作業を手元で行うときにボディ1を支持する手の指が滑り止めリブ109、109に引っ掛かって特に滑り外れにくくなって離脱作業が容易になる。

【0042】また、図11、12の分岐／分配器Aは、ボディ1側に設けられた突出部13が保護カバー4内面に弾性的に係止させられることで上記ボディ1と保護カバー4とが装着できるように構成しているので、上記ボディ1に対して保護カバー4を上から強く押し込むだけで簡単に保護カバー4を装着することができ、一方、保護カバー4の取外時には、上記突出部13に一体的に形成されている離脱用突片14を内側に押圧することにより、該突出部13も内側に若干撓ませることで、保護カバー4内面での突出部13の係止を簡単に解除させることができ、ワンタッチ式に保護カバー4をボディ1側から取り外すことができる。したがって、点検や修理作業が効率的に行うことができる。

#### 【0043】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1の発明によれば、P板ブロックを、保護カバー側ではなく、ボディ裏面側に固定して取り付けられているので、ボディ側と保護カバー側とをリード線で接続する必要がなく、施工性が格段に向上するという効果がともに、把手部を引っ張ることにより保護カバーをボディから容易に取り外すことができ、保護カバーとボディとの離脱作業が手元でも、分岐／分配器を取付面に取り付けた状態のままでも容易にでき、施工時、メンテナンス時の省力化がはかれる。

【0044】請求項2の発明では、係止爪部の係止面に傾斜を付けたことにより、係止爪部と爪受部との係止もしくは離脱が少ない外力で容易にでき、保護カバーとボディとの離脱作業または取付作業が少ない力でも容易にでき、施工時、メンテナンス時の省力化がはかれる。

【0045】請求項3の発明では、保護カバーをボディから離脱させる際に、把手部側の係止の方がその逆側の係止手段より先に係止解除されるようになっており、係止手段の係止を支点として保護カバーの把手部側が回転しながらボディから離脱していき、その後係止手段の係止が解除されるので、保護カバーとボディとの取り外し作業がスムーズとなる。

【0046】請求項4の発明では、ボディの挟持面を一方の手の指で挟持してボディを支持しつつ、他方の手で把手部を引っ張ることにより、保護カバーとボディとの離脱作業ができ、保護カバーとボディとの離脱作業を手元で行うときにはボディを支持する手がボディから滑り外れにくく離脱作業が容易になる。

【0047】さらに、請求項5の発明では、保護カバー

とボディとの離脱作業を手元で行うときにボディを支持する手の指が滑り止めリブに引っ掛かって特に滑り外れにくく離脱作業が容易になる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】映像ペア線式分岐／分配器の第1実施例を示す分解斜視図である。

【図2】同じく、組立完成時（保護カバーを装着する前）の斜視図である。

【図3】同じく、保護カバーとボディとの装着状態を示す要部断面図（把手部配設側）である。

【図4】同じく、保護カバーとボディとの装着状態を示す要部断面図（把手部非配設側）である。

【図5】1入力1出力2分岐の映像ペア線式分岐／分配器の場合のボディ1表面一部を示す図である。

【図6】施工状態図である。

【図7】第1実施例において、保護カバーとボディとの離脱作業の一例を示す図である。

【図8】第1実施例において、保護カバーとボディとの離脱作業の一例を示す図である。

20 【図9】、1入力1出力1分岐の映像ペア線式分岐／分配器の場合のボディ1表面一部を示す図である。

【図10】映像ペア線式分岐／分配器の第2実施例を示す分解斜視図である。

【図11】図12に示す映像ペア線式分岐／分配器の組立完成時の斜視図である。

【図12】映像ペア線式分岐／分配器の第3実施例を示す分解斜視図である。

【図13】2本通線状態を示す説明図である。

【図14】4本通線状態を示す説明図である。

30 【図15】脆弱部を拡大断面図である。

【図16】露出配線の状態を示す斜視図である。

【図17】埋込配線の状態を示し、(A)はその斜視図、(B)は壁面取付時の断面図である。

【図18】第3実施例において、保護カバーとボディとの装着状態を示す説明図である。

【図19】分岐／分配器を使用した集合住宅通話システムの一部を示す図である。

40 【図20】従来の映像ペア線式分岐／分配器を示し、(A)は分解時の平面図、(B)は組立完成時の側面図である。

#### 【符号の説明】

A 映像ペア線式分岐／分配器

1 ボディ

2 P板ブロック

3 本体裏カバー

4 保護カバー

5 a, 5 b, 5 c 電線挿通孔

6 連結端子

12 電線配装用の溝

50 12 a 下り勾配の傾斜を付けた溝

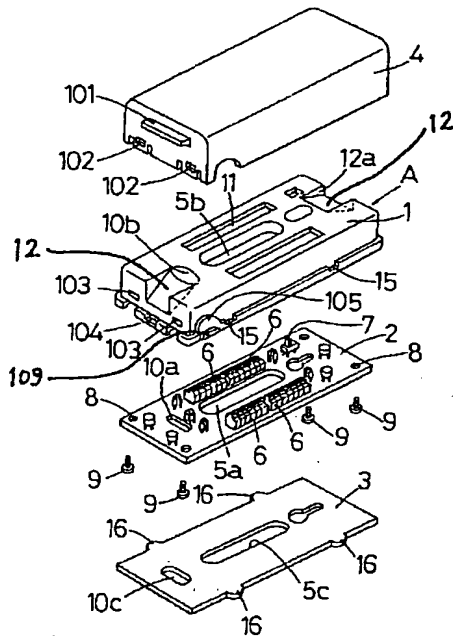
11

12

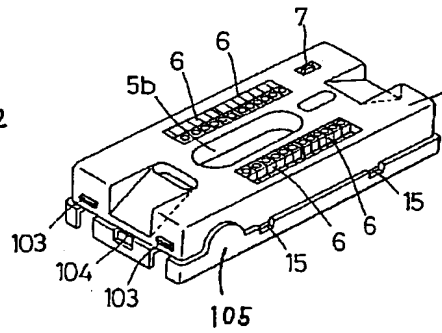
- 13 突出部  
14 離脱用突片  
101 把手部  
102 爪受孔  
103 第2係止爪  
103a, b 傾斜面  
105 挟持面

- 106 第1係止爪  
106a 傾斜面  
106b 引掛面  
107 係止凹部  
109 滑り止めリブ  
200 取付面

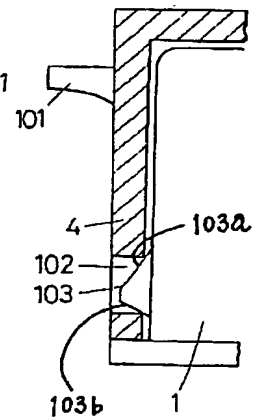
【図1】



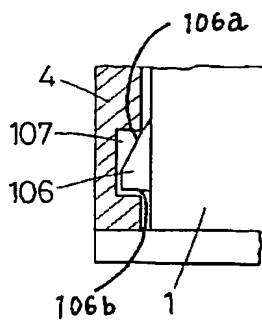
【図2】



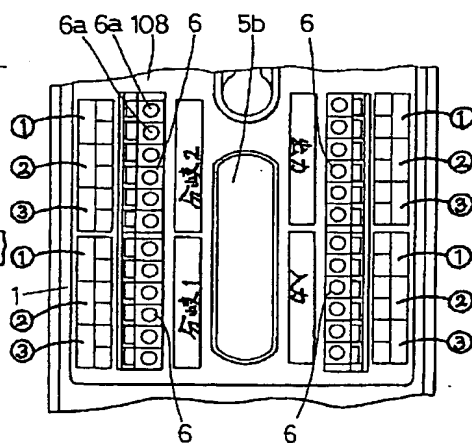
【図3】



【図4】



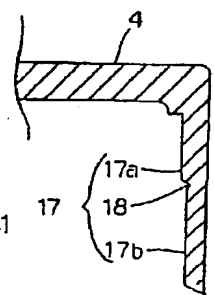
【図5】



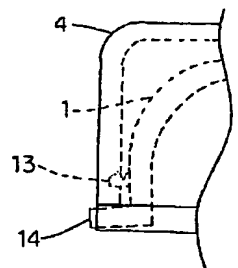
【図6】



【図15】

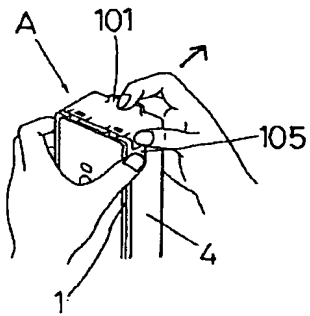


【図18】

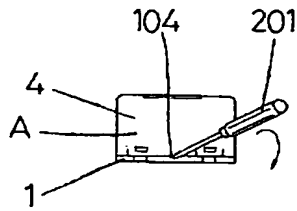




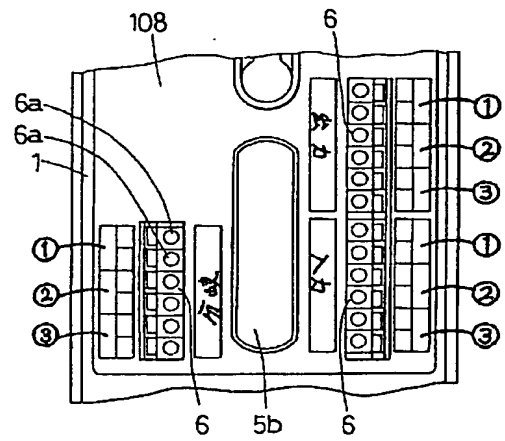
【図7】



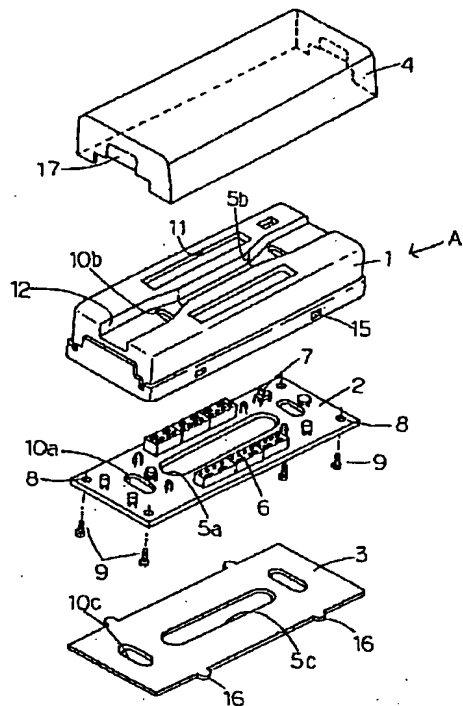
【図8】



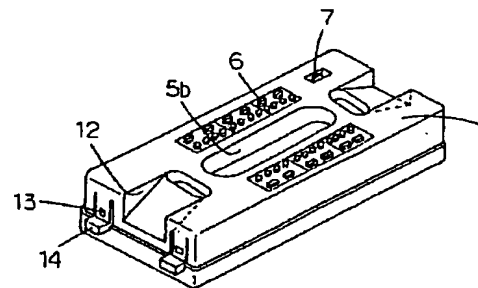
【図9】



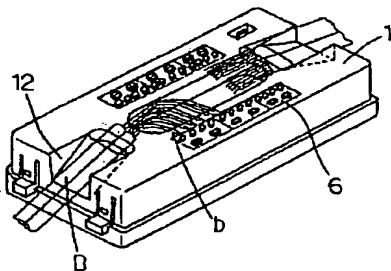
【図10】



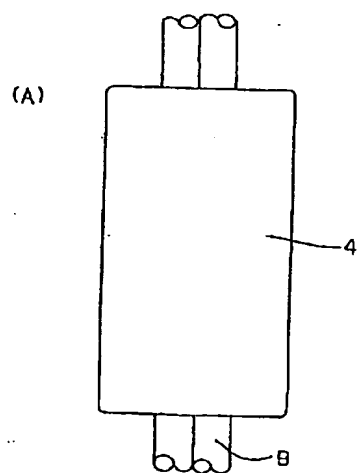
【図11】



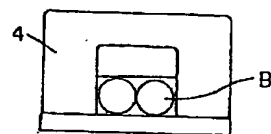
【図16】



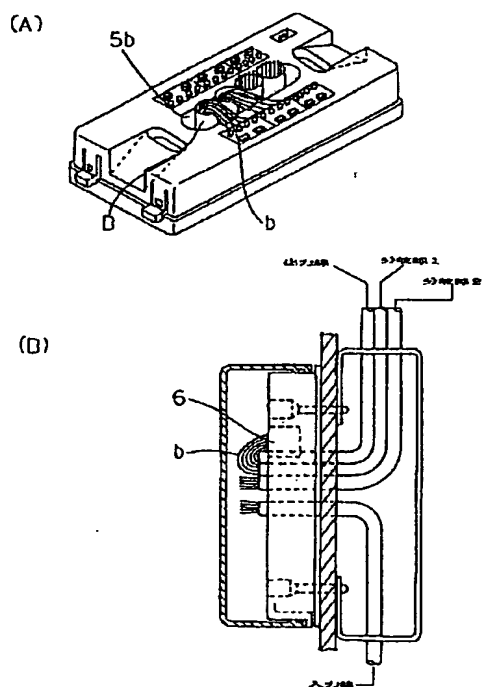
【图 13】



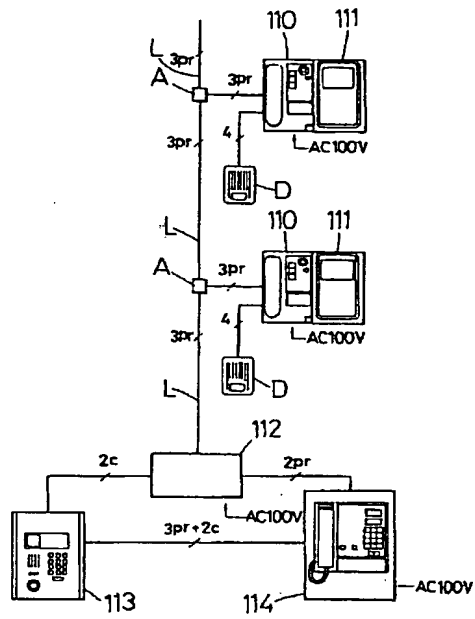
(B)



【图 17】



【図 19】



【図 20】

